

国際交流つうしん



P.2~3 まちで見つける世界の扉 ~千葉市編~



P.5 災害時外国人サポーター養成講座

目次

- P.2~3 まちで見つける世界の扉 ~千葉市編~
- P.4~5 事業報告(令和3年11月~令和4年2月)
今後の行事予定
- P.6 金さんに聞く ~日本での子育て体験談~
- P.7 JICA千葉デスクのページ
- P.8 台湾・桃園市 千葉県総合企画部国際課

広告

「日本語を教える」としたら **スリーエーネットワーク**

好評発売中

絵本で教えるにほんご
外国につながるのある
児童のための授業づくり

絵本を使って楽しく日本語を教えるための教師用参考書。絵本の選び方と使い方、初級日本語文法約50項目に対応する教え方のヒントとおすすめの絵本を紹介します。『みんなの日本語』対応課も記載。(イラストデータはWEBにて別売り)

野呂きくえ 著
本体1,760円(税込) A5判

最新刊や教材の使い方セミナーの情報等は <https://www.3anet.co.jp/>

広告

入管手続きは行政書士にお任せ下さい。

申請取次行政書士に申請依頼をすると、申請人本人は **出入国在留管理局への出頭が免除**されるので、**仕事や学業に専念**することが可能です。

お問い合わせは…
千葉県行政書士会
www.chiba-gyosei.or.jp/

〒260-0013 千葉県千葉市中央区中央4丁目13番10号
TEL: 043-227-8009 FAX: 043-225-8634

まちで 見つける 世界の扉

～千葉市編～



千葉県国際交流センター

うるしばた
漆畑

千葉県スポーツコンシェルジュとしてスポーツに携わるほか、日本語教師の資格を生かして国際交流センターの日本語関連事業も担当しています！みなさんに美味しい情報をお届けします！



JICA千葉デスク

きむら
木村

JICA千葉デスクで、JICAの千葉県の窓口を担当しています！JICA海外協力隊でキルギスに赴任中には、様々な異文化、食べ物に挑戦しました。ここでは千葉県で出会える異文化を紹介します！

千葉市には、約28,000人（令和2年12月末、千葉県総合企画部国際課）と県内で1番多く外国籍の方がお住まいです。千葉市は、国内在住のムスリムや訪日ムスリム旅行者などに配慮した「ムスリムフレンドリー」な都市としても知られています。今回は、千葉市で“多文化”に出会える場所、NPO法人千葉イスラーム文化センターさん、ハラール認証機関NPO法人日本アジアハラール協会さん、ベンガルタイガーさん取材してきました。

NPO法人千葉イスラーム文化センター

千葉イスラーム文化センターってどんなところ？

西千葉駅から徒歩約1分、千葉大学のキャンパスのすぐ近くにある5階建てのビルに、1階はハラールショップ、2～3階に男女別のマシッド（礼拝堂）、4階にセミナールームを完備し、また5階にはNPO法人日本アジアハラール協会が事務所を構えています。

もともと、千葉大学のムスリム留学生が、礼拝・文化・研究の場として作ったサークルから始まり、現在では留学生だけでなく、地域の住民が6～7割を占める、まさに千葉に住むムスリムの方たちにとってなくてはならない居場所になっています。メンバーが多国籍で、インドネシア、マレーシア、パキスタン、バングラデシュなど様々な国の方が集います。また、地域の住民にもとてもオープンで、ウェルカムな雰囲気でした。

マシッドでは、毎日5回の集団礼拝が行われるほか、金曜日の合同礼拝には80～100の方が訪れ、一般公開もされています。その他、イスラーム理解講座や文化交流会、多言語教室、ムスリム児童教室など、ムスリムの方向けの様々なイベントのほか、ムスリム以外の住民とムスリムの交流や理解促進のための様々なプログラムが企画され、まさに“多文化交流の実践の場”となっています。



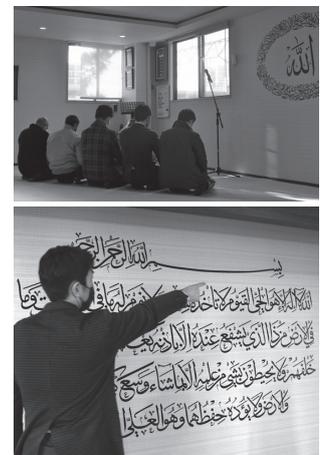
ハラールショップ SALAM117



異国情緒あふれるハラールショップには、世界各国から輸入されたハラール食品が並び、礼拝に来たムスリムの方が買い物をしたり、地域の方が珍しい食材を求めて訪れたりするそうです。調味料、乾麺、お菓子、米、豆などのほか、ハラールの冷肉や味噌などのハラール対応の和食の食材もありました。特に、世界各国でボランティア活動をしてきた取材班・木村は懐かしいハラール食品に大興奮で、みんなで買い物を楽しみました。

マシッド（礼拝堂）

取材の時間がちょうど礼拝の時間に重なり、平日の集団礼拝の様子を見せていただきました。クルアーン（コーラン）は歌のようでとても美しく、祈りをささげる姿は信仰の深さを感じさせ、私たち取材班も見入ってしまいました。礼拝堂に書かれた、イスラームの教えも解説していただきました。



理事長の杉本恭一郎さんにお話を伺いました！

理事長の杉本さんは、大学で文化人類学を勉強されていた時、バングラデシュ出身の留学生に出会い、彼の故郷、バングラデシュを訪れたそうです。当時、まだ貧しかったバングラデシュでも、人々は温かく、とてもオープンだったことが印象に残り、帰国後にイスラームの教えを勉強されたそうです。

現在は、理事長として、“心のバリア”をなくすため、また、日本人のイスラーム理解、外国ルーツのムスリムの日本文化理解を促進するため、ムスリムと日本人が交流できる事業を行ったり、分かりやすい和訳にしたクルアーンを提供するなど、精力的に活動されています。

さまざまな報道からムスリムは誤解されることもありますが、イスラームは平和的な生き方で、その教えは、“約束を守る”、“殺し合ってはいけない”など私たちが日頃思っていることとの共通点もあります。「啓典文化としてのイスラームを知り、いろいろな生き方、いろいろな価値観を知ってほしい」と杉本さん。コロナの影響でなかなか海外旅行に行かれない中、国内で外国人との交流をしたいという方も大歓迎だそう。ビジネス、勉強、ネットワーク作りなど何か相談したいことがあれば、いつでも気軽にお問合せくださいとのこと。交流することの大切さ、そのためにはいろいろなチャンネルを用意が必要なことなど、多くのことを学ばせていただきました。杉本さん、ありがとうございました！



NPO法人日本アジアハラール協会 (NAHA)

千葉イスラーム文化センターさんのビルの5階にオフィスを構える日本アジアハラール協会 (NAHA) さんにもお邪魔させていただきました。NAHAは、海外の政府にも認められているハラール認証機関で、現在国内の約250社に認証を与えているそうです。ハラールの認証があることで、世界のムスリムの方が和食を楽しめるようになり、また国内にいるムスリムの方が安心して食べ物を口にすることができるのです。理事長のサイドさんにお話を伺ったところ、食べ物を通じたつながりを大切に考えているとのこと。こうしたハラール認証によって、海外でもハラールのおせちを食べられるようになっているそうです。



ベンガルタイガー

インド出身のシェフが腕を振るう千葉県屈指のインド、アジア料理店。インドのホテル、マレーシアで複数の受賞歴のある5つ星ホテルのインド料理ヘッドシェフなど豊富な経験をもつシェフによるおしゃれで洗練されたモダンな料理は老若男女を問わず大人気。



千葉駅より徒歩7分。閑静な住宅街にあります。

お話を聞きました!

オーナーの小島さんによると、日本人のお客様を中心に、マレーシア、バングラデシュ等外国出身の方々もハラール料理を求めて来店するそうです。特定地域の料理を元にするのではなく、“モダンインドレストラン”として、オリジナル性とクオリティを重視。時間と心をこめて、皆様に喜んでいただける料理をめざしています、と笑顔で答えてくださいました。お店でアルバイトをする皆様は、バングラデシュやベトナム出身の方など様々で、英語が飛び交う多国籍な空間。楽しく働く皆様の笑顔が印象的でした。ハラール料理の提供には、シェフがムスリムであることを気にされる方も多いそうです。こちらのお料理は、すべてハラール対応なので、ムスリムの方も安心ですね。

読者に メッセージ

**海外旅行気分を
是非味わってください!**

いただいたメニューはこちら!



ラッシー

※個人の感想です

まずはラッシーで乾杯♪
季節のラッシー(取材当日はイチゴ)と、アップルマンゴーラッシーをいただきました。見ての通り、食器もおしゃれです!



バターチキンカレー

大人気メニュー。思わず「幸せ!」と叫びたいほどの美味しさ。パラタ(写真右上。モチモチの薄いパン)と共にいただくと更に感動します。好みの辛さを選べますよ!



エビマサラカレー

エビの香りが食欲をそそり、スパイシーで口に入れる度に体が温まります。スパイスに漬け込みグリルした海老は凝縮された美味しさ。見た目も味も芸術作品の様です!

取材メモ

今まで食べてきたカレーとは、一味も二味も違う美味しさと見た目の華やかさ! 1皿の中に、シェフのこれまでの経験とこだわり、想いが詰まっているのが見て取れます。辛さの選択もでき、非ムスリム向けにお酒もあります。多様な人々にとって居心地がよい空間とお食事でファンが多く、11時の開店と同時に大賑わいになります。取材班が頂いたメニューの他にも、マレーシアの“チキンレンダンカレー”、マレーシアやシンガポール系の方々にも大人気の“シンガポール風チキンライス”、週替わりの平日ランチセットもおススメ! お店のインスタグラムも、是非チェックしてくださいね!

Instagram : @bengaltigerrestaurant

ベンガルタイガー
千葉市中央区松波1-14-11
☎ 043-255-4410



あなたの町にある、「行ったことはないけれど気になる」エスニックレストランや、「イチオシ!」お勧めのレストランはありますか? 次回の取材の参考にしたいので、ぜひ教えてください。

◆情報はこちらまで◆ 国際交流つうしん担当: (Email : ied@ccb.or.jp)

◆日本語学習支援と文化理解を学ぶ講座

in 八街 (10月～12月) & in 千葉県 (1月～2月)

(各期ともオンライン開催、
全5回シリーズ)

日本語学習支援において大切な視点は何か。本講座では、外国出身の学習者の背景、「多文化共生」とは何か、外国人との相互理解、やさしい日本語を通じたコミュニケーション等について講義・グループワークを通じ、学び、考えました。第1期は、令和3年の八街市国際交流協会の設立に伴い、日本語教室が開始され、八街市で活動可能な方を中心に、21名が修了しました。第2期は、募集範囲を千葉県全域に広げ、17市町村から32名が講座を修了しました。受講者からは「対等な立場で取り組めるような学習内容を考えていきたい」「学び続けることの大切さを改めて認識した」等の声が聞かれ、今後の活躍が期待されます。

◆日本語学習支援者 フォローアップ講座 1月26日・2月2日 (オンライン開催)

多文化共生の最前線に立ち、地域で活動されている日本語学習支援者の方々に、講演・グループワークを通じ、活動のヒントを学ぶ講座を開講しました。支援活動の対象者別に、〈子どもへの支援活動編〉〈生活者への支援活動編〉と題し、総勢47名の方にご参加いただきました。



1月26日 〈子どもへの支援活動編〉

講演1：「千葉県外国人児童生徒等教育の方針」について
(千葉県教育庁教育振興部 学習指導課)

講演2：「地域で支える外国人の子どもたち」
(海老名みさ子氏 認定NPO法人外国人の
子どものための勉強会 理事長)

参加者から、県内の外国人児童・生徒の現状やこれからの課題について考えるよい機会となった等の声がありました。

2月2日 〈生活者への支援活動編〉

講演：「相互交流をめざした地域の日本語教室
—コロナ禍の今、わたしたちにできること—」
(宿谷和子氏 にほんごの会企業組合理事
『いっぽにほんご さんぽ
暮らしのにほんご教室初級シリーズ』著)

参加者から、対面授業とオンライン授業のメリット、デメリットの対比ができた等の声がありました。

◆第2回 地域日本語教育関係者ミーティング 2月9日 (オンライン開催)

県内の日本語教育にかかわる方々が一堂に会した本ミーティングには、講師に「社会福祉法人さぼうと21」の矢崎理恵氏をお迎えしました。『コロナ禍で改めて考える、「わたし」にとっての「日本語教室」』と題し、「伴走」「包括」「連携」をキーワードに、コロナ禍でも「つながる」ことのできる「学びの場」のため、オンラインを駆使した活動事例を数多く紹介していただきました。意見交換会では、『地域の活動同士が「つながる」には』というテーマについて、参加者27名を5つのグループに分け、意見やアイデア交換が行われました。

◆担当者のこだわり！

県内では日本語学習支援者の皆様の長年のご尽力により、約160カ所の日本語教室が、日本語を学びたい、地域とのつながりが欲しい、という在住外国人の方々の支えとなっております。一方、地域によっては外国人が日本語を学ぶ場がなく、また、教室によっては学習支援者となる人材の不足やコロナ禍における活動の難しさ等、様々な課題を抱えております。学習支援活動の数だけ、多様なスタイルがある中、皆様の想いを大切にしながら、情報交換や人材育成等の事業を実施していきます。日本語を通して地域とつながる場の充実を目指し、一人でも多くの方と連携していきたいと思っておりますので、日本語教育関連のお困りごと、耳寄りな情報等ありましたら、お気軽にご連絡ください。どうぞよろしくお願いいたします。



担当者：工藤 弥生
総括コーディネーター
キャリア15年。
親身な対応は、外国
出身者からも好評。

◆多文化共生出前講座@八生小学校 11月8日

コソボ大使館のアーバー・メフメティさんに、八生小のいいところと、成田空港のヒミツについて子供たちから発表しました。英語でのコミュニケーションに緊張気味の子供たちでしたが、休み時間には英会話ガイドブックを片手に、ジェスチャーを加えてアーバーさんとの交流を楽しんでいました。

◆第1回国際理解セミナー 12月10日 (オンライン開催)

国士舘大学文学部教授で、移住者と連帯する全国ネットワークの副代表理事を務めるなど現場でも外国人ルーツの方がたの支援に取り組んでいる鈴木江理子先生に、「コロナ禍の外国人住民が抱える問題と支援」をテーマに講演いただきました。就労、教育など様々な視点から、コロナ禍だけではなく、平時から様々な困難があるということを教えてくださいました。参加者からは、「社会学と絡めて体系的に外国人ルーツの方の支援について学ぶことができた」などの感想が寄せられ、大変好評でした。



◆外国人相談担当者意見交換会 12月21日(オンライン開催)

県内の外国人相談窓口の担当者等を対象に、東京出入国在留管理局在留支援部門在留支援ご担当の建山宣行氏による講義と担当者同士の情報交換を行いました。建山氏には、入管制度について分かりやすくご説明いただきました。

◆災害時外国人サポーター養成講座(銚子) 1月15日

千葉県、銚子市、銚子市国際交流協会と共催で、講座を行いました。災害時の外国人支援の基礎や、やさしい日本語についての講義を受けたあと、「災害時多言語支援センター」を設置することを想定し、避難所巡回のルートの検討、外国人向けの災害情報の優先順位付け、また、チラシ作成等を行い、最後に避難所で外国人の方に困りごとを聞いたり、情報を提供する訓練をしました。学生も多く参加し、受講者同士が協力して作業する姿は素晴らしかったです。

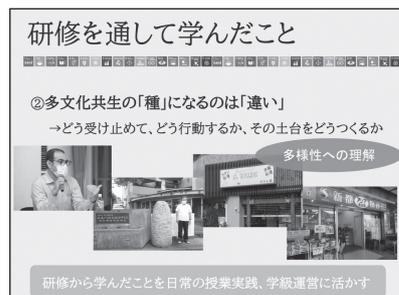


◆国際交流・協力等ネットワーク会議 1月21日(オンライン開催)

市町村、市町村国際交流協会、民間の国際交流・協力団体等とネットワークを作り、連携を図っていくことを目的とした会議を開催しました。「災害時の外国人支援」、「外国人の教育・進学支援」、「地域における外国人キーパーソンの発掘・育成」、「SDGsと国際交流・多文化共生」の4つのテーマで意見交換会等を行い、参加者同士で今後の活動につながる貴重な情報を提供し合い、主催者としても有意義な意見をたくさん聞くことができました。

◆第2回国際理解セミナー 2月20日(オンライン開催)

JICA東京と共催で、教員や一般の方を対象としたセミナーを行いました。第1部は、東京外国語大学多言語多文化共生センター長の小島祥美先生に、外国籍児童生徒の不就学の背景や課題、子どもたちの潜在能力を伸ばすために必要なこと、高校入試の課題などをご説明いただきました。小島先生の情熱を感じる講演は、参加者の胸に響くとても有意義なものでした。第2部では、JICA教員研修に参加した3名の先生から、研修を生かした授業実践について報告がありました。先生方が吸収されたことを存分に生かして、授業をされたことが伝わってきました。



今後の行事予定

事業	内容	時期(予定)
国際交流ボランティア制度	語学、ホストファミリー、文化、事業、日本語の各ボランティアの登録・紹介	随時
ホームページ等による情報発信	在住外国人向けの生活情報やセンター事業等について発信	随時
会報誌「国際交流つうしん」の発行	当センターの事業や国際交流・多文化共生に関する情報等を紹介する会報誌の発行	7月、11月、3月
千葉県外国人相談事業	在住外国人の電話・来所による生活相談への対応(13言語)	随時
外国人のための無料法律相談	外国人の生活上の法的問題に弁護士、行政書士が対応、通訳手配も可(原則第1月曜日、行政書士は奇数月)	毎月
ちば出前講座	在住外国人・JICAボランティアOB/OG等を団体や学校等に講師として紹介	随時
多文化共生開発講座	外国人講師による出身国の紹介と、ディスカッション等を中心としたクラス授業の実施	随時
国際フェスタCHIBA	国際交流・協力団体の活動成果等を広く県民に広報	年1回
日本語学習支援者基礎講座	初心者を対象に、必要となる基礎的な知識や素養を養うための講座	6～3月
日本語学習支援者フォローアップ講座	日本語学習支援の活動のヒントを学ぶ講座	6～3月
地域日本語教育関係者ミーティング	日本語教育関係者の活動に役立つ情報の提供や、意見交換等を図るための会議	年1回
語学ボランティア講座	MICE関連事業やスポーツ大会等におけるボランティアとしての活動を見据えた講座	年1回
外国人相談基礎知識研修	在住外国人の生活支援に役立つ、基礎的事項を学ぶ講座	年1回
外国人相談担当者意見交換会	県内の外国人相談担当者向けの講義・意見交換会	年1回
国際理解セミナー	県民に広く、国際理解を図る講座	年3回
国際交流・協力等ネットワーク会議	民間国際交流団体や、市町村国際交流協会担当者による情報交換	年1回
災害時外国人サポーター養成講座	災害時に外国人をサポートする人材を育成する講座	年3回

金さんに聞く ～日本での子育て体験談～

千葉県では、外国にルーツのある住民が年々増えています。その中には、言葉や文化が違う日本で出産をしたり子育てをする女性もたくさんいます。現在、(一財)自治体国際化協会(CLAIR)の多文化共生マネージャーにも認定され、NPO法人流山市国際交流協会の外国語支援事業部長として地域の多文化共生に尽力されている、韓国出身の金淑花さんに、日本での子育てについてお話を伺いました。

金淑花さん プロフィール

1993年来日し、日本語を学んで就職、国際結婚、子育て中に流山市で韓国語講師を担当して今に至る。2011年の東日本大震災を機に外国人への災害時の対応に興味を持ち、2016年多文化共生マネージャーと認定。現在、流山市国際交流協会外国語支援事業部長として外国人の安心・安全な生活を支援する活動中。



1. 来日のきっかけを教えてください

韓国で大学を卒業し、社会人になりましたが、自分が夢見ていた仕事と現実のギャップを感じるようになり、家族の反対を押し切って日本に留学することにしました。日本には知り合いもおらず、日本語もほとんどできないまま来日したので不安でしたが、いざ成田空港に着いてみると、日本人は外見が似ていたのでホッとしたことを覚えています。

1年のつもりで来日しましたが、語学の研修や聴講生などを経て、北海道の大学院に進みました。

2. 日本での結婚・出産について教えてください。

大学院修了後、仕事も決まり、結婚をして千葉県に引っ越し、子どもを授かりました。「どこで産むの?」、「仕事の日、子どもは誰に預けるの?」など分からないことだらけでした。韓国とは出産・育児の事情も違うので、頼れる情報源は、夫と義母だけでした。

結局仕事を辞めることになり、産院は夫が調べたところに決まりました。日常会話は既に行えるようになっていましたが、それでも情報を集めることは難しく、情報が少ないため、ほとんど選択肢はありませんでした。



3. 日本での子育てはどうでしたか?

周りからは、夫は日本人で、私自身も日本語を話すことができたので、「苦労していない」と思われていたと思います。学校の保護者会では、「私は日本人ではありません」と最初に宣言することにしていました。そうでないと、分かっているだろうと推測されてしまうからです。

幼稚園の参観日に、持ち物の「クーピー」が何かわからなくて持っていけなかったことがありました。小学校に入学する時は、上履きをどこで買うのが分からない、どんな筆箱を用意したらよいのか分からないといったこともありました。夏休みの宿題も、言葉の問題で私は見ることはできなかったので、先生に「うちは夏休みの宿題はできません」と最初に断っていました。高学年になると、自分だけやっていないということに子ども自身が焦りを感じるようになり、自分で勉強するようになりました。

4. お子さんとの関係はいかがでしたか?

子どもが小学生のころは私の日本語もまだまだだったので、例えば「牛乳を食べて」、「背が(高いではなく)大きい」などと私がい方を間違えて言ったことについて、学校で聞いた日本語と違うことで「お母さん、嘘ついた」と言われてしまうことがありました。子どもが成長するにつれ、だんだんと子どもの方が自分より日本語が上手になっていくことを実感しました。子どもは言葉を覚えるのは早いし、日本の学校にもいずれ適応していくことが多いと思いますが、外国出身のお母さんは、日本語ができないと取り残されてしまうと思います。

今、大学生になった子どもは二重国籍で、「自分は何者なの?」と自分のアイデンティティについて悩みを持っているのかなと思うことがあります。今、子どもは大学で歴史について勉強しています。親としてはしっかり学んで成長してほしいです。



5. 外国ルーツのお母さんたちに伝えたいことを教えてください

日本のルール、やり方を知っておいて損はありません。自分の国のやり方も大事ですが、両方知っているとうまくいきます。私の場合、教育熱心な韓国出身ですが、学校のしくみを知らなかったため、私立の中学校受験や高校受験、大学受験のことをもっと知っていたら別の選択もあったのかなと思うことがあります。

また、自分と同じ国出身の先輩ママを見つけると、いろいろな情報が得やすいと思いますよ。

金淑花さんには、平成31年度に当センターが作成した「学校からのおたより」の7言語の翻訳集の作成にあたって、検討委員会の委員としてもご尽力いただきました。日本で子育てをする外国ルーツの保護者の皆さんを、当センターとしても応援していきたいと改めて感じました。金さん、貴重なお話をありがとうございました。

JICAだからこそできる在住外国人支援

地域の外国人住民の割合が増え続けている昨今、言語のサポートや異文化理解、ルールの共有など課題はまだまだ山積みです。JICAは一般的に「開発途上国での国際協力」を行っている組織として知られていますが、実は新型コロナウイルスの影響による困窮外国人支援を皮切りに、広く在住外国人支援にも乗り出しています。開発途上国でのJICAの知見を活かして、地域の日本人住民と外国人住民を繋いでいます。

日本人職員向けスリランカセミナー @山武市の幼稚園

セミナーの背景

山武市は人口減少が問題となっている中、外国人住民、とりわけスリランカ人が増加しています。市役所や病院、幼稚園ではスリランカ人住民とのコミュニケーションに課題があり、JICAに相談が届きました。

セミナーの第1弾として、園児の約5人に1人がスリランカ人であるという市内幼稚園で、JICA海外協力隊としてスリランカの幼稚園で幼児教育を行った加瀬谷知子さんと、同じくスリランカで保健師として活動をしていた関根静夏さんをゲスト講師に招き、幼稚園職員向けにスリランカセミナーを行うことになりました。幼稚園ではスリランカ人の保護者とのコミュニケーションに課題があったため、事前に保護者に聞きたいことをアンケートにまとめてもらい、シンハラ語に翻訳、スリランカ人家庭に配布し、児童のアレルギーや宗教、園児の家庭での様子等を調査しました。



プログラム

2021年12月23日（木）13:30~15:50

- 13:30ー スリランカの文化、慣習、幼児教育の実態の紹介、
幼稚園でよく使う言葉の言語レッスン
- 14:35ー 質疑応答、幼稚園教職員からの相談
- 15:15ー 保護者アンケートの結果報告と対応策検討
- 15:50 終了



結果

アンケートを実施するまでは、幼稚園を利用しているスリランカ人家族はシンハラ語を話す仏教徒が多いと思われていましたが、実際には全家族がタミル語を話すイスラム教徒であることがわかりました。またスリランカでは、トイレで用を足した後にトイレットペーパーで拭くよりも水で流す風習があるため、園児が園のトイレの利用を避け、帰宅までずっとトイレを我慢しているという重要な問題も判明しました。

職員がスリランカの文化等を知る機会になると共に、保護者から「幼稚園が私たちの宗教や文化に興味を持ってくれていることが驚きだった」「幼稚園の誠意ある対応に感謝」という声もあり、双方が近づく一歩になりました。今後もJICAの人材や知見を活かし、協力を続けていきます。

お気軽にお問合せください♪

千葉県国際交流センター内 JICA千葉デスク

国際協力推進員 木村 明日美

TEL: 043-297-0245 / 090-4024-0441

FAX: 043-297-2753 E-mail: jicadpd-desk-chibaken@jica.go.jp



2021年に友好交流協定締結5周年を迎えました!

千葉県と台湾・桃園市は2016年8月に友好交流協定を締結して以来、スポーツ・教育・文化などの分野で活発な交流を行っており、2021年に協定締結5周年を迎えました。本年度は知事と市長がオンライン会談を行い、熊谷知事からは5周年を機にさらに交流が発展するよう、また鄭市長からは、一日も早い新型コロナウイルス感染症の収束と交流再開が叶うよう、メッセージを交換しました。

桃園市の概要

～千葉県と地理的環境が良く似ている都市～

桃園市は、面積1,220.9km²、人口227万人(2021年)、台湾の北部に位置し、台湾の空の玄関口「桃園国際空港」を擁する都市です。また、山や海などの豊かな自然に恵まれ、工業、農業、商業がバランス良く発展、プロ野球球団「楽天モンキーズ」が本拠地を置いています。

桃園市の魅力

桃園市内にある、拉拉山(海拔2,031m)で毎年5～7月に収穫できる桃は、甘くてジューシーかつ柔らかく、一口食べればやみつきに。また、10～11月には、果実がぶぐりで甘みが非常に強い次郎柿と富有柿が収穫期を迎えます。桃園市に遊びに行った際はご賞味ください!

鄭文燦 桃園市長のメッセージ

千葉県とは友好都市協定を締結して6年目に突入しました。その間、トップ同士の定期的な対談以外にも、卓球やマラソンといったスポーツ交流、農業博覧会へのパネル展示や伝統芸能の交流、県庁職員による短期海外研修や、スマートシティ、福祉施設の視察など官民間わず多種多様な交流が行われてきました。

現在は新型コロナのため往来が困難ですが、交流が止むことなく、オンラインなどでやり取りを続け、都市間の友情を育ててまいります。



虎頭山から望む桃園市



卓球交流
(2018年1月、桃園市にて)

桃園市との主な交流

〔スポーツ〕 卓球交流では、高校生が桃園市内や千葉県内で親善試合を実施、マラソン交流では千葉県推薦のランナーが「桃園ハーフマラソン」で、「ちばアクアラインマラソン」では、桃園市推薦のランナーが出走しています。

※R2、R3は新型コロナウイルス感染症拡大により中止

〔教育〕 県内の高校生と桃園市内の高校生が交流している他、教職員交流も行っています。

※本年度はオンライン等で実施

〔文化〕 県内の高校の吹奏学部が桃園市内で開催された音楽の祭典「桃園管楽カーニバル」に参加しました(2019)。

交流の新たな道筋～未来に向けて～

知事と市長が両県市の友好交流協定締結の日を記念し、ウェブ会談をしました。熊谷知事と鄭市長は初対面でしたが、終始和やかな面談で、感染症収束後の往来を伴う交流の再開を約束しました。

本年度は、ウェブ会談のほか、千葉県、桃園市それぞれの地でお互いの魅力をPRするなど、往来再開後の交流が充実したものになるよう、取り組んでまいりました。今後も、桃園市と協力し、知恵を出し合いながら交流を進めてまいります。



知事と市長のウェブ会談
(2021年8月9日)

2020年1月の卓球交流に参加した 東京学館浦安高校3年生の東山莉久さんにお話を伺いました!

○台湾で最も印象的だったことは何ですか?

→(東山選手) 言葉が通じなくても、試合やジェスチャーを通じて、台湾の人達とコミュニケーションが図れるということがわかりました。台湾の選手から「一緒に打ち合おう!」と声をかけてもらったりしたことが、とても嬉しかったです。食べ物では「八角」の香りや煮卵が非常に印象的でした。

○現地での活動はどうでしたか?

→(東山選手) 親善試合をやりましたが、台湾の選手は日本では見慣れない粘着ラバーがついたラケットを使用しており、ボールの回転量が違いました。日本だったら、(相手の陣地に)打ち込める角度で打っても入りませんでした。

○帰国後に始めた新たな取組みはありますか?

→帰国後に行われた全日本ジュニア選手権の1、2回戦で勝利を収めることができました。台湾遠征で学んだ技術や経験を今後もいかしていきたいと思います。

最後に…

卓球一家に生まれ、3歳から卓球を始めた東山さん。インタビューを通し、持ち前の豊富な好奇心&探求心で、台湾で多くのものを吸収されてきたことを強く感じました。先生も「好奇心旺盛で誰からも慕われ、後輩の面倒見がとても良い生徒」と太鼓判。将来は卓球をはじめとしたスポーツ選手などを支えるための研究や開発を行っていきたいとのこと。今後の活躍が大いに期待されます!



台湾遠征時の写真(2020年1月)

Instagram (https://www.instagram.com/chiba_international_center/)、
Twitter (https://twitter.com/chiba_ccb_ic) 始めました!
「千葉県国際交流センター」で検索して、ぜひフォローしてください。



公益財団法人 ちば国際コンベンションビューロー 千葉県国際交流センター

〒261-7114 千葉県美浜区中瀬2-6 WBGマリビースト14F
TEL:043-297-0245 FAX:043-297-2753 E-mail:ied@ccb.or.jp

<https://www.mcic.or.jp/>へgo!

センター事業の紹介、最新ニュース、
講座やイベントなど役立つ情報を
掲載。

年3回発行
(7,11,3月)